

七戸町について、以前本誌の連載第49回で「上北郡の古都」と書いたことがある(2009年10月号)。

かつて上北郡役所が置かれた歴史を有し、今も古い街並みが随所に残っているからだ。当時の写真と現在の街並みを見比べ、納得される方も多いと思う。写真は大切な記録資料であり、歴史資料としても重要なのである。

土史家をはじめ博物館員や学芸員が集まってシンポジウムを開催し、有志が集まって街歩きをするなど、活動は多方面にわたっている。

こうした活動団体の一つとして、2018(平成30)年3月26日、七戸町内で「アーカイブしちのへ」が設立された。県民生活文化課の文化・NPO活動支

への活動を通じ、何度か講演をさせていただいた。新しい発見があり、地元の子供たちから貴重な話題を提供されるなど、得るものが多かった。

本誌に掲載した写真は、会員が町役場の協力を得て収集し展示してきた写真である。手前の橋は七戸橋で、橋から奥に向かって小川町、下町、横町、本町と街並みが続く。背後の丘は七戸城跡。丘の下の望楼のある建物が七戸警察署で、その手前が町役場である。



七戸町の街並み=昭和10~20年代・七戸町役場提供

はじめ、古文書や文献資料、絵がきや写真等のデータを公表した。これからもデータを蓄積し、より便利で使いやすいアーカイブス構築していきたいと思

県内各地では最近歴史に関する関心を持つ人々が増えている。郷

援グループの事業をきっかけに、町内の有志が集まって立ち上げたものだ。故郷の懐かしい写真を町内の各地で展示し、写真を見ながら談笑し合い、交流の輪を広げたいの思いが、会の運営を支えている。

同じ県民生活文化課に所属する筆者も文化・NPO活動支援グループの事業に協力し、アーカイブしちの

写真を通じて交流の場を!

〜アーカイブしちのへ〜 活動から

中園 裕

(県民生活文化課
県史編さんグループ主幹)

七戸町の街並み全体が写っているため、展示会では大いに話題になった。自分の家が写っているか、現在との共通点や相違点はどこかなど、話題が尽きなかった。しかし、いつどこから撮影したのが確定できなかつたので、県史編さんの諸資料で調べてみた。

七戸橋が木造から鉄筋コンクリート造りになり、落成式を行ったのは1934(昭和9)年12月25日。写真の手前には川向の坂と呼

ばれる坂があり、かつて坂の上には火の見櫓があった。戦時中は火の見櫓の下が子どもたちの遊び場だった。雪が積もると、そり遊びをして坂を滑り降りる子どもたちが多かったという。

現在、火の見櫓は撤去され、周辺にも高い家屋が多くなったが、現地に立つと写真と同じ方向に街並みが見える。街全体の景観や建物の残り方から判断し、現段階で昭和10年代から20年代に、火の見櫓から撮影したものと思われる。今後、県史の成果を踏まえ、会員や町民からの聞き取り調査を得ながら撮影年代を確定なものにしたい。

青森県史のデジタルアーカイブスで七戸橋を検索すると、明治末期から大正初期に撮影された絵がきや数枚表示される。まだ木橋時代の七戸橋だが、本誌に掲載した橋と比較してみたい。今後、青森県史のデジタルアーカイブスを通じて、アーカイブしちのへの活動を援助できればと考えている。